

日医かかりつけ医機能研修制度 令和3年度応用研修会

日本医師会かかりつけ医診療 データベース研究事業 (J-DOME)

2021年7月18日

公益社団法人 日本医師会
副会長 今村 聡



日本医師会かかりつけ医 診療データベース研究事業（J-DOME）

ジェードーム

J-DOME: Japan medical association

Database Of clinical MEdicine

生活習慣の変化

糖尿病の受療者330万人
糖尿病予備群1,000万人
高血圧患者1,000万人
高血圧有病者4,300万人

国による生活習慣病の予防・
重症化予防の推進

新型コロナウイルス感染症拡大

かかりつけ医の
役割増大

実データを用いてかかりつけ医による
生活習慣病診療を推進

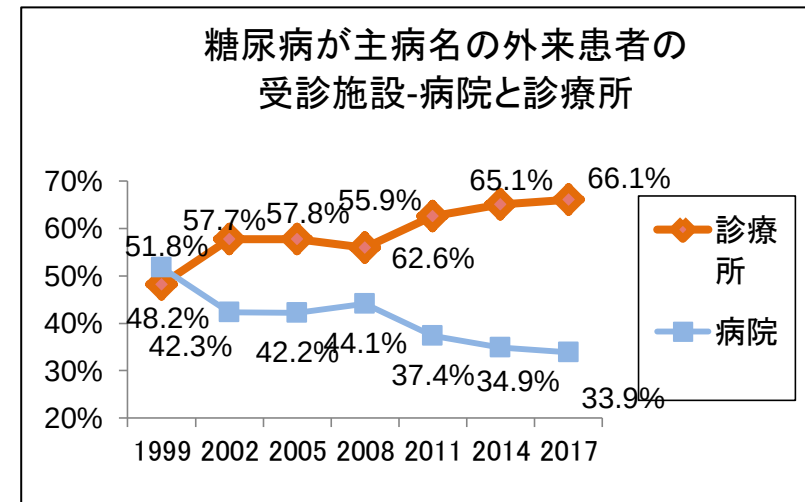
日本医師会における^{ジェードーム}J-DOMEの開始

- 国による糖尿病性腎症重症化予防 の推進
- かかりつけ医による初期段階の診療は極めて重要
- わが国では診療所の診療データが不足



日本医師会がデータ収集開始

- 2型糖尿病症例(2018年～)
- 高血圧症例(2020年～)



J-DOMEの目的

- 症例レジストリを構築し、診療の実態を把握する
- 参加施設へのフィードバック
 - 自施設と全国との比較(コントロール状況、処方etc.)
 - 専門医と非専門医の診療の相違
- リアルデータを活用した均てん化への支援
- 地域のかかりつけ医と専門医の連携強化
- ジェー ドーム

J-DOME: 研究の実際

〇〇クリニックへ来院中の患者さん
へご協力をお願いする



患者口頭同意書

対象患者さんは？

2型糖尿病患者
高血圧患者
高血圧 & 糖尿病患者

ポイントは？

あくまでも

日常臨床の中で

通常の診察、投薬を行い

患者さんの同意を得た上で

日常診療のデータを収集

患者様へ

日本医師会 かかりつけ医 診療データベース研究事業
(J-DOME) へのご協力をお願い

当院では「日本医師会 かかりつけ医診療データベース研究事業 (J-DOME)」への協力を行っております。この研究は、全国の診療所(約 200 施設)において令和 4 年 6 月まで実施するものです。登録させていただく 2 型糖尿病患者ならびに高血圧の患者さんの数は約 1 万人の予定です。

研究の目的は、糖尿病と高血圧の診療状況を把握し、患者さんがより良い医療を受けられるように支援することです。結果として、糖尿病や高血圧の患者さんが減り、重症化を防ぐことを目指しています。研究では、通常の診療の診療情報(処方薬名、一部の検査値など)の登録を行います。患者さんへは通常の治療・検査を行いますので、ご負担や危険は一切ございません。

個人情報保護とセキュリティ管理は万全です。登録する診療情報には、患者さん個人を特定できるお名前・生年月日などは一切含まれませんし、情報は厳重に保管・管理いたします。第三者機関である日本医師会倫理審査委員会の審査と許可を受けております。また、研究は本研究事業の主体者である日本医師会と研究協力者として実施いたします。

もし何らかの事情で協力をやめられる場合は、医師にお伝えくだされば研究対象から外させていただきます。診察の際にお申し出いただくか、お電話等でお伝えください(代理人からの申し出でもかまいません)。その場合も、以後の治療に不都合が生じることは一切ございません。なお、この研究は、日本医師会の資金で実施しており、製薬会社などからの資金提供は受けておりません。研究の詳細など具体的なにお知りになりたい場合はお教えください。よろしくお願いいたします。

令和 3 年 月
〇〇〇クリニック 院長 〇〇〇

研究責任者：日本医師会総合政策研究機構
主査研究員 江口成美

J-DOME: 症例登録画面

Web登録または紙
の登録票に記入

 日本医師会 かかりつけ医診療データベース研究事業 (J-DOME) 2021年度 (糖尿病・高血圧)				
赤字の項目は必須項目です。 入力する症例を選択してください。		施設整理番号 j00005 症例登録票 v.5.0 2021 前回の症例登録内容呼び出す ※登録番号を入力してください		
☐ 糖尿病症例は、1～7と9の項目を入力 ☐ 高血圧症例は、2と7以外全てを入力 ☐ 高血圧で糖尿病の症例は1～9を入力 をお願いいたします。				
全症例対象				
1 基本情報① 必須項目と生活習慣等	登録番号 (J-DOME 登録用の患者番号)		同意の取得	☐ あり
	診療日	西暦 20 年 月 日		
	年齢	歳	性別	☐ 男性 ☐ 女性
	身長	cm ☐ 変化なし	体重	kg
	喫煙歴	☐ あり 本/日 ・ 年数 年 ☐ なし ☐ 過去にあり		
	飲酒頻度	☐ 毎日 ☐ 週に4～6日 ☐ 週に1～3日 ☐ 月に1～3日 ☐ 数ヶ月に1回 ☐ 飲まない		
	飲酒日の1日当たりの飲酒量 (日本酒換算)	☐ 1合 (180ml) 未満 ☐ 1合～3合未満 ☐ 3合～ ※日本酒 1合 (180ml) の目安: ビール中瓶 1本 (約500ml)、焼酎35度 (80ml)、ウイスキーダブル 1杯 (60ml)、ワイン 2杯 (240ml)		
	生活習慣の指導	食事療法の指導 ☐ 行っている ☐ 行っていない 減塩の指導 ☐ 行っている ☐ 行っていない 運動療法の指導 ☐ 行っている ☐ 行っていない		
糖尿病症例のみ				
2 基本情報② 糖尿病	糖尿病の診断年月	西暦 年 月 ☐ 不明		
	当院への糖尿病通院歴	☐ 初診 ☐ ～1年 ☐ 1～5年 ☐ 6～10年 ☐ 11～15年 ☐ 15年以上		
	糖尿病の家族歴 (2親等以内)	☐ あり ☐ なし ☐ 不明		
	糖尿病網膜症	☐ あり (☐ 単純 ☐ 増殖前 ☐ 増殖) ☐ なし ☐ 不明		
	神経障害	☐ あり ☐ なし ☐ 不明	人工透析の導入	☐ なし ☐ あり

問診情報

検査値

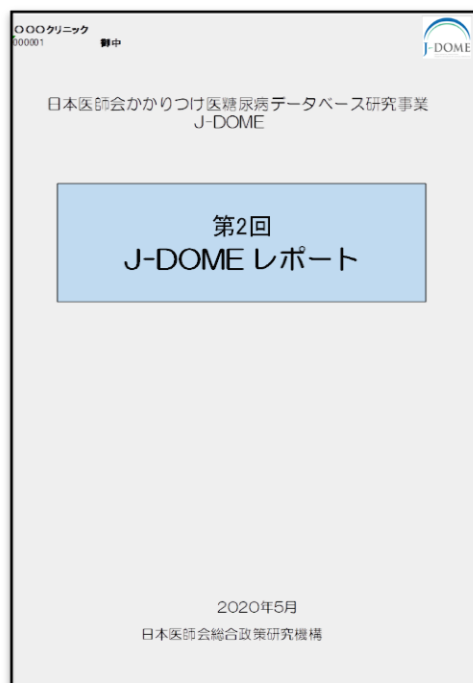
指導の有無

処方薬の種類

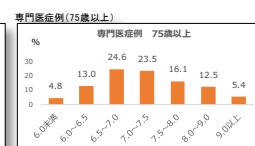
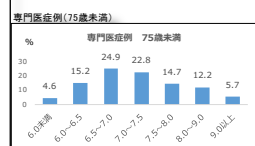
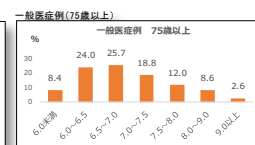
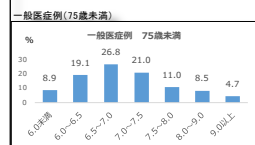
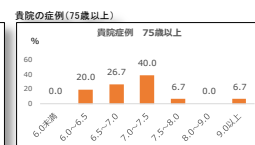
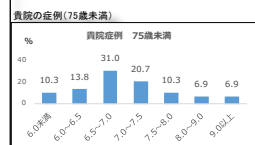
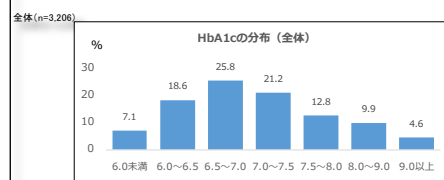
- ✓ 年に1回症例の追加更新をお願いしています
- ✓ データは匿名化されて安全に保管されます
- ✓ 自院の症例はWEB上で確認できます

J-DOMEレポート(糖尿病部分)

- ・ 集計・分析結果を協力医療機関へ年1回レポートとしてフィードバック
- ・ 全国と自院のデータを客観的に比較
- ・ 自身の診療の振り返りが可能
- ・ 現在のトレンドもわかる



2-3 HbA1c値の分布(2019年)



2-4 処方(血糖降下薬、降圧剤、脂質異常症治療薬)の薬剤別使用割合(2018年と2019年)

	2019年				2018年			
	貴院	全体	一般医	専門医	貴院	全体	一般医	専門医
スルホニル尿素(SU)薬	6.8	23.3	22.0	25.8	6.8	24.0	23.0	25.9
ビグアナイド薬	61.4	43.3	41.7	46.1	54.5	41.1	39.2	44.6
DPP-4阻害薬	81.8	67.3	70.3	61.7	75.0	67.7	70.5	62.8
SGLT2阻害薬	29.5	22.7	23.7	20.9	29.5	18.6	19.4	17.1
αグルコシダーゼ阻害薬	2.3	13.7	14.6	12.2	2.3	14.0	15.0	12.0
チアゾリジン薬	2.3	7.7	7.8	7.4	2.3	7.9	8.2	7.4
グリニド薬	0.0	6.5	5.7	7.9	0.0	6.1	5.4	7.5
インスリン製剤	9.1	13.2	9.8	19.2	9.1	13.7	10.4	19.8
GLP-1受容体作動薬	0.0	3.8	2.2	6.5	0.0	2.8	1.3	5.5

(当該薬剤を処方している症例数÷全症例、割合率も含む)

血糖降下薬3種類以上	20.5	31.9	30.6	34.4	15.9	29.8	28.3	32.5
------------	------	------	------	------	------	------	------	------

降圧薬の使用割合

	2019年				2018年			
	貴院	全体	一般医	専門医	貴院	全体	一般医	専門医
ARB	43.2	45.5	46.8	43.0	43.2	45.2	47.4	41.1
ACE阻害薬	0.0	3.8	3.9	3.6	0.0	3.6	3.7	3.5
Ca拮抗剤	40.9	42.1	45.4	36.1	40.9	43.5	47.5	36.1
利尿薬	4.5	8.5	10.5	5.0	4.5	8.0	9.4	5.5
β遮断薬	4.5	7.0	7.9	5.5	4.5	6.6	7.2	5.5
その他降圧剤	9.1	4.4	5.4	2.4	9.1	3.1	3.6	2.1

脂質異常症治療薬の使用割合

スタチン系	38.4	44.6	47.1	40.0	36.4	42.9	45.2	38.8
その他脂質異常症治療薬	2.3	10.4	11.3	8.7	2.3	9.5	10.0	8.4

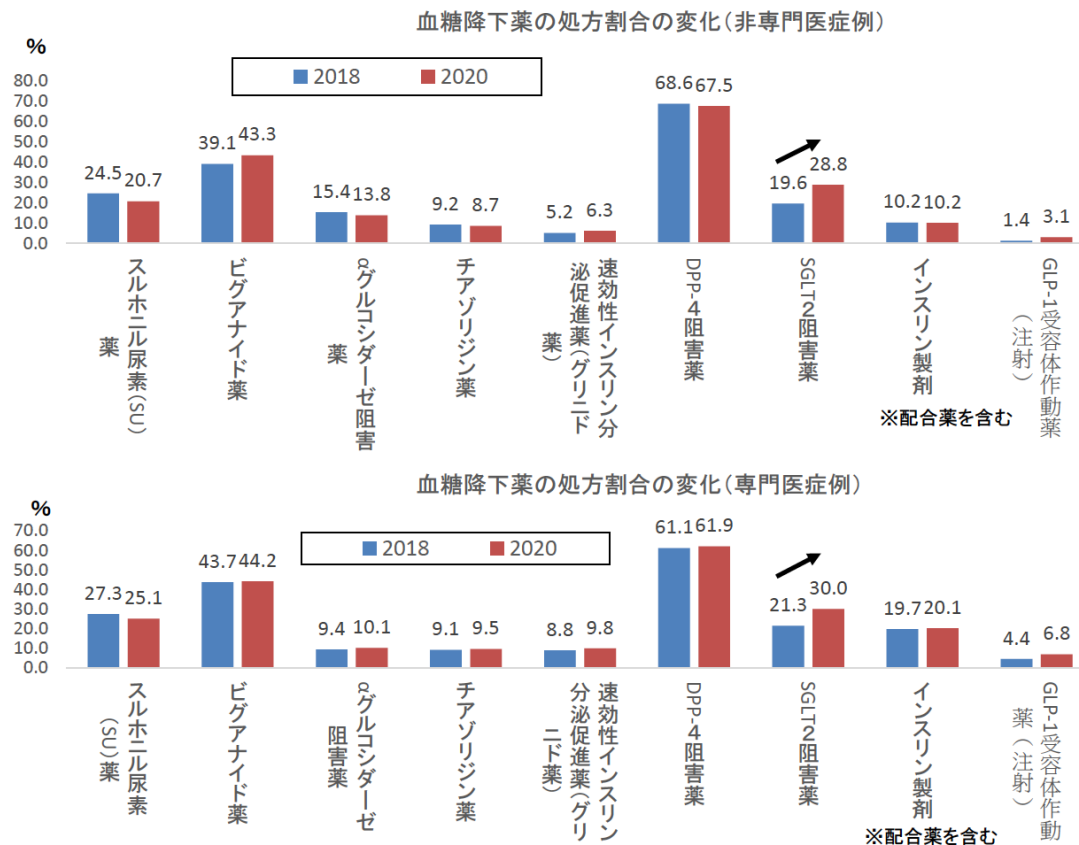
(当該薬剤を処方している症例数÷全症例、割合率も含む)

多くの血糖降下薬の中で、それぞれの特徴を生かした使い分けが求められている。血糖降下薬のうち処方率(2019年)が高い薬剤はDPP-4阻害薬で、全体で67.3%、一般医症例で70.3%、専門医症例で61.7%であった。一方、SGLT2阻害薬は全体で22.7%、一般医症例で23.7%、専門医症例で20.9%で、2018年より使用割合の微増傾向がみられた。ビグアナイド薬は全体43.3%、一般医41.7%、専門医46.1%で2018年から微増、グリニド薬とGLP-1受容体作動薬も微増、SU薬は微減傾向がみられた。血糖降下薬3種類以上の症例は、全体で31.9%、一般医30.5%、専門医34.4%であった。

降圧薬のうちARBの処方率(2019年)は一般医症例では46.8%、専門医では43.0%、Ca拮抗剤の使用割合はそれぞれ45.4%、36.1%であった。脂質異常症治療薬のスタチン系の処方率は一般医で47.1%、専門医で40.0%であった。

J-DOME:これまでの解析から

糖尿病治療薬（非専門・専門医症例） 2018→2020



日常臨床における
治療薬使用の傾向
トレンドが
わかる！

J-DOME: 当院で参加して・・・(参加医師から)

- 医師側にも様々な気付きがある！
 - 高血圧家族歴: 高血圧があったのは父？祖母？兄弟？
 - 発症年月日: ああ、この頃から降圧薬を始めたんだっけ・・・
 - 飲酒や喫煙などの嗜好: 普段こんなお酒を呑んでいるんだ
 - 合併症: そう言えば10年前に胃癌の手術していたこと思い出した
- 患者さんにとっても
 - 今日は色々と詳しく訊いてもらえた
 - 1日塩分摂取量測定で塩の摂り過ぎの原因がわかった
前の日の回転寿司が悪かったかな・・・
 - 自分の高血圧や糖尿病の治療歴の振り返りができた
- メディカルスタッフから
 - 患者さんとの距離が近くなった
 - 減塩指導などがやりやすく、効果的であった
 - 患者さんとの普段の会話での気付きが増えた
 - 自分も臨床研究に参加しているというモチベーションがアップ！

参加者
みんなに
気付きがある！



ジェー ドーム J-DOME: 研究のお誘い



➡ 参加申し込みはこちら

📞 お問い合わせ

📞 03-3942-7215 (日医総研)

✉ jdome@jdome.jp



J-DOME ホームページ: <https://www.jdome.jp/>

お問い合わせ: J-DOME事務局 03-3942-7215

全都道府県でのご参加をよろしくお願いいたします。



参加者に日本医師会から院内掲
示用の感謝状を送付いたしま
す。

学会との連携

- 日本高血圧学会と連携協定
(2020年7月)
- 対象を糖尿病と高血圧に
- 今後も学会、自治体との連携を
推進



J-DOME:現在の登録状況

- 全国で約12,000症例
- 地域(都道府県)に偏り
- 全ての都道府県で症例を増やし、悉皆性を高める努力を継続中

(より全国を代表するデータベースに)

全都道府県で症例を増やすため
ご参加の協力をお願いいたします。



令和3年度 厚生労働
科学研究費補助金
糖尿病など生活習慣病対策の地域
格差の把握とその改善

J-DOMEのこれから

- データ解析、論文化による活用
- 国との交渉における活用
- Web勉強会、地域での講習会
- 日医生涯教育単位とセットの方向

ご参加をお待ちしております。

資料請求は日医総研**J-DOME事務局**までご一報ください

03-3942-7215 ホームページ<https://www.jdome.jp/>



ご清聴有り難うございました。

